

平成21年度

OMC年度賞発表

上田、華岡、森口 3氏の作品が受賞

平成22年度の年度賞は12月の幹事会にて選考の結果、年度大賞に該当する作品が見当たらず、下記の3作品が等しく年度賞として選ばれました。

- ・年度賞 上田吉巳さん 「もう一つのねぶた祭」 11分 HDV
- ・年度賞 華岡 汪さん 「イグアスの滝」 10分 HDV
- ・年度賞 森口吉正さん 「鞍馬の火祭り・担ぐぞ松明」 10分 W

上田さんの「もう一つのねぶた祭り」は、撮影が難しい通天閣かいわいの人物像の中に入って撮影、弘前のねぶた祭のミニ版を皆で拵えて祭りに参加するという内容で、そのご努力が評価されました。主人公の対馬氏の扱いが少し中途半端で惜しいとの声がありましたが良い作品でした。

華岡さんの「イグアスの滝」は、壮大な滝の全貌をよく判り易く纏められ、楽しい作品になっているとの評価が得られました。

森口さんの「鞍馬の火祭り・担ぐぞ松明」は、狭い場所で人出の多い夜の祭りの状況を、よく描写されて雰囲気을伝えていると評価されました。

■年度賞のあり方を見直します

年度賞は幹事会で選出されますが、幹事会の構成メンバーは世話役の中の、日本アマチュア映像作家連盟会員となっていますので、主だった人が選ぶ側にたっています。昨年、特例として「会長賞」を設けたこともありましたが、「励みになる」という声もあり、今後どの様に運営していけばよいか本年度の課題にしたいと思います。

2月例会のお知らせ

2月例会は第4土曜26日18時より、いつものJR難波駅上4階難波市民学習センターにて開催します。月1回の楽しいひと時をたくさんの仲間と楽しみませんか。作品共々お待ちしております。

■予告：5月例会は撮影会の都合で、第3土曜日21日に変更になりますので手帳などに書きとめておいて下さい。

撮影会は5月28日(土)29日 白浜方面にて企画

今年の一泊撮影会は、白浜町のビデオサークル紀南(会長・森裕治氏)さんのご協力を得て、目下岡本世話役を中心にして企画を進めています。目玉は29日の日曜日に行われる「砂まつり」です。札幌の雪まつりを砂に置き換えたようなイベントで、早いチームは早朝5時頃から砂像を造り始めるとの事です。その他、水族館にはクラゲの研究をされている準教授が岡本世話役の同級生ということで、クラゲを中心とした撮影も楽しめそうです。OMC一泊撮影会では雨で撮影会が成立しなかったことは一度も無いので今年も雨が降らないよう祈るのみです。なにしろ砂まつりは雨天中止のようで、その場合、水族館やその他どのような撮影対象があるか予定しておく必要があります。近く現地へ行きビデオサークル紀南とも打ち合わせをしますので決まりましたら直ちにお知らせします。宿泊人数確認のため同封の出欠ハガキを2月25日までに必着でお送りください。

■西井学さんより健康上の理由で退会届

昨年までOMC会員で活躍していました草津の西井学さんからお手紙を頂戴いたしました。それによると目の手術をされ、目を酷使するパソコン操作等を眼科医より止められているので、やむなく制作活動を制限し、今後は守山のクラブのみの活動に絞られるとの事。したがってOMCは退会となりますが皆さんによるしくと…。

■受賞おめでとうございます

・丹波篠山ビデオ大賞コンテスト

篠山市議会議長賞

「ああ余部のわれらいま」

前田茂夫

8分

1月例会のレポート

1月例会は第3日曜日15日13時より開催。今月は初めて宮井氏が書記役に、司会は有村氏、上映と録画担当は井上、江村の両氏。受付兼照明係は紙本、華岡の両氏で

進行。例会後直ちに総会開催、新年会へ席を移動しました。

■出席者：有村、井上、上田、江藤、江村、岡本、紙本、河口、黒田、合原、進藤、関、田中、高瀬、西村、華岡、船橋、前田、宮井、宮崎、森下、山本、吉岡、渡辺の24氏と作品10本でした(敬称略)。

■上映(今月の講評は宮井世話役です)

1) 大阪城の冬から春へ(SD)

船橋喜敏さん

15分

大阪城の近くにお住まいの作者。地の利を活かして何度も撮影に出られ完成された力作です。2月は梅、3月は桃、4月は桜を、大阪城の風景を交えながら花のカットが沢山展開します。スチール写真の撮影がご趣味の作者。構図がいいですね。しかし三脚の動かしかたが、ぎくしゃくしていません。12月例会の作品でも感じましたが三脚を少しずつ動かしてパンニングしていました。パンニングはある程度でスムーズに行わなければなりません。動画もフィックス(固定)が基本ですので、フィックスで撮影することをおすすめします。

15分は長いので7分ぐらいにして、カメラが動いているカットを削除して再編集すると良い作品になると思います。

2) 京友禅張り絵師・橋準(SD)

高瀬辰雄さん

11分45秒

京友禅の端切れを使って絵画の作品を40年も作り続けている京友禅張り絵師・橋準さんの作品の紹介を主に構成された作品です。橋準さんの本名は橋本さん。苗字と下の名前を一字ずつとって名乗られています。作品の題材は四季の風景、祭り、12支、草花、寺院、神社など様々です。作品に描かれた風景や神社仏閣などを作者は撮影に行かれ、実写と絵画が交互に展開します。とても良い発想です。橋準さんの作品は色彩豊かで見事な芸術作品です。友禅張り絵の独特の作品群は必見の価値があります。出来れば作品をクローズアップで撮影して布地の質感を感じるカットが欲しかったです。この作品は貼り絵の紹介だけでなく制作の様子や個展風景、宇治橋を歩く橋準さんなど、またインタビューでどうして

このような作品を作るようになったかと聞きます。以前呉服の仕事をしていて端切れを利用出来ないかと思ったのが、きっかけのようです。橋準さんの人物像はある程度出ていますが、もう少し踏み込んで密着取材すれば入賞も夢でないでしょう。

3) 孫と山陽路へ (HDV)

宮井 健(筆者) 9分13秒

この作品は20年8月に当時、中学2年生の孫と二人旅をした記録をダイジェスト風にまとめました。冒頭からテロップで間違いました。広島路面電車に乗っているカットに広島市電と出しました。広島電鉄が正しいのです。恥ずかしい！訪れた所は広島平和公園・原爆記念館～宮島～錦帯橋～てつのおくら館・大和ミュージアム～鞆の浦～倉敷美観地区～姫路城の7ヶ所です。手持ち撮影が未熟でお見苦しい作品でした。

筆者は鞆の浦に訪れたのは初めてで、ここでの撮影は風景のみを三脚を使用して撮影しました。しかし真夏の旅は厳しく汗びっしょりでした。「錦帯橋」と「てつのおくら館」のカットのところで市名を出してなかったのが、順路が判りづらいと新年会の席上で有村さんにご指摘を受けました。なるほどと納得をしました。有難うございました。

4) 観心寺探訪 (HDV)

進藤信男さん 7分50秒

河内長野市の古刹・観心寺を紅葉の季節に訪れ撮影されました。お寺の正門前で南北朝時代の名将・楠木正成が馬上の銅像で迎えてくれます。この寺の創建は役行者で後に空海が本尊に如意輪観音を祀り、真言宗の寺になり、寺名も雲心寺から現在の観心寺に変わったそうです。紅葉の風景を入れながらお堂などの建造物、北斗七星星塚霊場などを丹念に撮影されました。そして寺の歴史を詳しくナレーションで語られます。筆者の興味があったのは「建てかけの塔」です。三重塔を建てていたとき、楠木正成が湊川で戦死したので1階部分だけで終わったそうです。千早赤阪城が近くにあったので楠木正成の首塚もあるのですね。

作者の誠実な人柄を感じる、いい作品になりました。ただ映像はロングが多くて印象が弱く感じました。アップを入れるとリズムが出てより素晴らしい作品になります

5) あるお地蔵さんのお断 (HDV)

前田茂夫さん 10分35秒

余部のお寺の境内にあるお地蔵さんは小さいけれど、地域の人たちは大切にしています。頭には頭巾をかぶり着物も着ています。寺の歴史は200年以上で、ずっとこの場所で座り続けています。作品はこのお地蔵さんが主役です。「わしはなあ～実はその地蔵じゃ。」と語り出します。余部の歴史にも触れ、余部鉄橋の事も語ります。季節は雪が積もった真冬、老婆がお参りに来てお地蔵さんの雪を取り除くカット。お地蔵さんの語り「ほんに有難いことじゃ～」季節は初夏になります。お地蔵さんの前で撮影するカメラマンのカット。「7年ぐらい前からカメラとかいう物でわしを撮りに来なさる。嬉しいことじゃ。」撮影する会員の宮崎さんや作者自身の姿もありました。お地蔵さんは海側を背にして山側を向いています。後ろから聞こえてくる音が以前から気になっていました。何の音か、お地蔵さんでも判らないのです。一度でいいから見たいと半回転して余部鉄橋と向かい合います。地蔵の顔にズームアップ。「なんと美しい景色じゃの～。これが余部鉄橋か！」作者は余部鉄橋の映像を求め続けました。只々敬服します。何年も地蔵を撮り続けているうちに、こんな発想が生まれたのでしょうか。とにかく驚きました。楽しくて印象に残る作品の誕生です。

6) 竹田城址 (HDV)

江村一郎さん 6分22秒

作者は8ミリフィルム時代から作品を作り続けています。当時から独特のカメラワークは個性的で感性豊かな映像に注目していました。「高知のよさこい」や「余部」の作品にはいつも感動を覚えています。さて今回の作品は竹田城址です。以前に紙本さんの作品で竹田城の歴史をナレーションで語る力作がありましたが、この作品は映像詩です。冒頭から圧倒的で美しい映像が

現れます。朝霧が竹田城址を包みこみ、周囲全体にも雲海のように霧が立ち込め、その幻想的な風景は活字では言い表せないです。こんな映像は簡単には撮れません。作者は数えきれないほど現地を訪れたそうです。まさに執念の映像です。

天性の映像感覚をお持ちの作者にお願いします。これからは作品の中を広げて私たちを楽しませてください。

7) アプトの道 (HDV)

紙本 勝さん 13分

アプトとはアプト式鉄道の名前です。その鉄道の廃線跡に遊歩道が作られ、人気の道になっているそうです。作品の始めは横川駅から有名駅弁の峠の釜めしのお店や「鉄道文化むら」のカットがあります。ここには碓氷線を走った車両が沢山展示されていて作者は多くの車両を撮影しています。そしてアプトの道を歩き始めます。碓氷線は横川～軽井沢間で 11.3 キロを走っていました。アプトの道は横川から「めがね橋」までの 4.7 キロです。途中、山菜取りの主婦や魚釣りの男性に話かけます。地元の人と会話出来るのは素敵なことですね。旅なれた作者らしいです。旧丸山発電所に立ち寄ります。標高差 552 m、勾配 66.7 パーミルの急坂を上がるのには電気機関車の力が必要で発電所と変電所が作られたそうです。橋やトンネルを越えながら歩きます。ずっと登り坂です。でも健脚の作者は平気です。終点のめがね橋に着きます。資料を駆使しての詳しいナレーションは勉強になりました。

歩く姿を自分撮りしていましたが全部後からです。前かも撮影して下さいね。

8) 大阪のクリスマスイブ (AVCHD-60P)

有村 博さん 5分35秒

作者はクリスマスイブに撮影に行きました。使用カメラはパナソニックの TM 750 です。60 P で撮影出来て緻密な画質が売りです。クレジットタイトルは H・A—A VCHD と出ました。作者の新しい映像が予想されるタイトルです。ミナミの夜景から始まり御堂筋のカットに変わります。電飾の街路樹を背景に、車のヘッドライトが

クロスして光ります。フィルターを付けて撮影されています。ショーウインドのサンタクロースの人形がインサートで出ます。そして中の島公園に移動します。

ここで BGM の曲が変わるのですが、変わり目がスムーズにいいいけません。作者としては珍しいです。中の島界限では中央公会堂の壁面に投影されるウォールター・ベストリーや、沢山の光のオブジェが撮影されています。訪れた人たちがシルエットになり、幻想的な映像です。そして梅田界限の夜景で END。TM 750 の画質は素晴らしく、おしゃれな作品でした。欲を言えばカップルの幸せそうな表情のカットが幾つか欲しかったです。

9) 秋景のみのお滝 (HDV)

西村光雄さん 3分10秒

作品の始めに紅葉の山のロングのカットのあと、滝の上から流れ落ちる水をカメラが追います。そして紅葉の向こう側に滝が姿を見せ、タイトルが出ます。赤く色づいた楓のカットのアップがいくつか出て観光客のカット。再び滝の映像になり、激しく水しぶきを上げながら落ちるカットは迫力がありました。滝の前の橋付近には沢山の観光客の姿がありました。映像の美しさが印象に残りました。

10) 青い空青い海 (HDV)

山本正夢さん 9分30秒

タイトルをただだけで南の海の風景が浮かんで来ました。太平洋に浮かぶパラオ諸島で撮影された作品です。上空から撮影した珊瑚礁の海が美しいです。高速で走る船からのカット。BGM は現地で求めた CD が使われていて映像にピッタリです。船には 10 人以上の観光客が乗っているようです。エメラルドグリーン的大海そして白い雲が浮かぶ青い空。タイトル通りの風景が広がります。海中の魚、石灰質の白い泥を塗る女性、捕獲されたマングローブ蟹、スコール、石貨、謎の石碑群ストーンモリノスなどのカットが続きます。パラオ最古のバイ(村の集会場)1890 年建のカット。建物に描かれた絵にパラオの文化を感じました。山を越え森を抜け川を渡り、やっとた

どり着いた大きく広がる滝。滝の裏側には広い、空間があり、そこからの撮影された映像が美しかったです。島に行きたくなりました。

こんなケースも著作権クリアーを！

前田 茂夫

ビデオ作品にCDの音楽を付けた場合で、個人が内々で楽しむ場合以外に、ビデオコンテストに出品する場合はその楽曲の著作権をクリアーしなければならないということは誰も理解していることです。しかし自分の意思である楽曲を選びCDを買ってきてBGMとして録音なくとも、著作権をクリアーする必要があることが判りました。例えば街角である楽曲に合わせて若者がストリートダンスをしている、小学校や幼稚園で学芸会や運動会などで楽曲に合わせてダンスや遊戯をしている、その映像を撮影し作品として、どこかのコンテストに出品した場合は主催者から著作権許諾を取ってくださいと指示されることがあります。

実は昨年秋に丹波篠山ビデオコンテストに拙作「ああ余部のわれらいま」を出品してみました。締切後しばらく経ってから主催者から次のような電話がありやり取りをしました。「あなたの出品された作品がノミネートされました。ついては作品に使われている”崖の上のポニョ”のBGMの著作権許諾を取って下さい。」、私は大変驚きました。「えーっ、あの作品は小学校・幼稚園の運動会で園児の遊戯を撮っただけのものです。BGMは幼稚園の先生がいいと思って選んだ音楽で私は一切関わっていません。たまたま遊戯の時に鳴っていたのが崖の上のポニョであって、私はそのCDも持っていないし、別に何の音楽でも良かったのですが…。」「撮影した状況の如何を問わず、楽曲をBGMと使っていることには間違いありませんから、許諾を得てもらわないといけませんよ。」「念のために、当方からもJASRACに再確認して、また電

話します。」とのやり取りをしました。

翌日主催者から電話が入り「JASRACに確認しましたが、やはり運動会でスピーカー流れた音楽をBGMとして使っている以上許諾が必要です…。」折角自分の作品がノミネートされたことでもあり、「判りました、許諾を得るようにしますからJASRAC電話番号を教えてください。」と切って切りました。

それから許諾を得るまでの経緯は次の通りです。まずJASRACに電話して、「運動会で幼稚園児の遊戯を撮った作品のバックに流れているBGMも著作権の許諾がいますか？」と主催者から指示されたこのとの再確認をしました。「当然、必要です。」「そうですか、判りました、ではどうやって申請すればいいのですか？」「JASRACのHPに申請書のダウンロードのページがありますから、用紙はそこからダウンロードして下さい。」「ところで、その音楽の製作者側の許諾をとっていますか？それが先決です。それが得られないと許諾を与えられません。」と云われました。さあ、困りました。自分はCDを持っていないしどうしたら製作者に辿りつけるのか、楽曲の名称は”崖の上のポニョ”というアニメのBGMであることは判っていたので、インターネットから”崖の上のポニョ”でググッて見ました。そうしたら徳間ジャパンという会社が検索出来たので電話をして主旨を話しました。

「当社はCDを発売はしているが原版的著作権を持っていません。」「どこがもっていますか？」「スタジオジブリです。」「判りました、電話番号を教えてくださいませんか？」

こうして徳間ジャパンからスタジオジブリの電話を聞き出しました。スタジオジブリといえばあの有名な宮崎駿氏の率いるアニメ制作会社ではないか、著作権許諾を得る手続きは何とも大変なものだと思いながらスタジオジブリへ電話しました。担当者へ回されたので、以上のように「崖の上のポニョ」の1曲使用と時間は約3分程度と主旨を話し、コンテストの主催者から著作権

許諾を得るように云われているのですが、どうすればいいのですか？」「主旨は判りました。ところでDVDは何枚つくりましたか？」「応募用に1枚だけ作りました。」

「何枚も焼いて他に配ることはありませんか？」「応募しただけですから1枚だけです。」「よく判りました、コンテスト応募用に1枚焼いただけなら無料でよろしいから、コンテスト主催者の名称、楽曲の名称、使った時間、焼いたDVDの枚数、必要とする理由等FAXで送って下さい。」と親切にいわれたので正直ほっとしました。高額な許諾料を請求されたらどうしようと内心ビクビクしていました。さらに付け加えて次のようにも言われました、「あなたの使用目的では、何十万円もの使用料を請求しませんよ…。」翌日に私が送った許諾依頼書にスタジオジブリのゴム印を押してFAXで返送されて来ました。

次はJASRACの許諾です。先日やり取りした担当者に電話しました。「そうでしたか、無料でしたか、それは良かったですね。では、当方からも許諾を降ろしますから正規に申請して下さい。」このような経緯があってスタジオジブリとJASRACの双方から許諾を得たので、その書類の写しを主催者へ郵送して一件落着きました。

拙作「ああ余部のわれらいま」で使用したBGMは、問題になった崖の上のポニョの1曲、小学校校歌をMIDIで自演奏したBGM、夕方6時に余部地区に響き渡ってスピーカーから流される「夕焼け小焼け」の楽曲及びラストシーンにMIDIで自演奏した楽曲1曲の合計4曲を使っていますが、これら3曲については主催者からの指摘はありませんでした。もしラストシーンのBGMを指摘されていたら、楽譜発行会社から作曲者を紹介してもらい、作曲者の許諾を得なければならなかったであろうと思いました。

このようにアマチュア映像作品のコンテスト応募には、BGMの著作権許諾という大きな壁が立ちはだかっています。従って、著作権フリーCD集を使う必要があるので

すが、残念ながら市販の著作権フリーCD集を買ってもなかなかびったり使える曲がないのが悩みの種ですね。多くの著作権フリーCD集は「旅行、ドライブ、運動会等行事、子供の遊び、遊園地、お正月、お祭り等々」私たちアマチュアが既に卒業している分類の映像作品合うような軽いBGMを多数発売しているからでしょうか。本当に使いたい感覚のBGM「人の心理、情感、情景、感動、感激、寺院、仏閣、宗教行事、自然等々」に合うような重厚なBGMをもっと販売して欲しいものと願っています。リズム楽器が前面に出ると、楽曲が軽くなりがちですからリズム楽器のない曲又はリズム感を押さえた曲を希望したいものです。どうしても著作権フリーのCDにいい楽曲がなくて、止むを得ず市販のCD音楽を使った場合ですが、まずそのCDを発売している会社に電話して、原版の著作権を持っている会社を教えてください。次に著作権を持っている会社と話し合って許諾を得る必要があります。この場合問題になるのが、日本の会社が著作権を持っている場合は交渉出来ますが、それが外国の会社であったらまず交渉が出来ないし、そこで行き止まりにぶち当たります。日本の会社で交渉が出来たとしても、使用料を幾ら請求されるか想像が付きません。幸いにして日本の会社と話し合いが出来て演奏の許諾をもらったら、次はJASRACへ連絡して許諾をしてもらうという手続きになります。私の場合は原版の使用料は無料にしてくれました。JASRACへ払う使用料は、1曲のみ約3分、DVDは1枚ということで1,450円を2ヶ月後に請求されるということです。多分最低料金だろうと思います。ビデオ作品をコンテストに応募したとき、主催者からBGMの著作権をクリアするように指示された場合、大変面倒な手続きが必要になることを理解しておく必要があります。使用する楽曲が器楽演奏だけではなく、歌手が唄う歌が入ってる場合はさらに難しい問題が待ち構えていそうですね。歌入りの楽曲は使わない方がいいと思います。